

趣味のパッションフルーツ

栽培手引書

J A 6 A T L

D.ABE

平成24年10月 改定



目次

1, はじめに	2 ページ
2, パッションフルーツとは	2 ページ
3, パッションフルーツの花	3 ページ
4, 栽培方法について	3 ページ
5, 開花後の水と肥料	4 ページ
6, 受粉作業	5 ページ
7, 水遣りの注意	5 ページ
8, 果実の収穫	6 ページ
9, 気温と植物の関係	6 ページ
10, 株の増やし方	7 ページ
11, 樹形	8 ページ
12, 剪定	8 ページ
13, 苗の植え替え	9 ページ
14, 病虫害	9 ページ
15, ショップで苗を購入する時の注意	9 ページ
16, 月毎の管理作業	10 ページ
17, グリーンカーテンについて	13 ページ
18, 簡単な作業カレンダー	14 ページ
19, 全国主要都市の年間の月別平均気温(資料1)...	14 ページ
20, 果実の生育状態グラフ (資料2)	15 ページ
21, パッションフルーツの成分表(資料3)	15 ページ
22, パッションフルーツの食べ方	16 ページ
23, 最後に	16 ページ

パッションフルーツの栽培手引書

Growth guidance of Passion Fruits

2011. 11. 17作成

(トケイソウ科) (和名クダモノトケイソウ) (学名 *Passiflora. edulis*)

はじめに

退職後の趣味としてパッションフルーツの栽培を始めたのですが、沖縄に旅行した時に食べたパッションフルーツが美味しかったので、私の住む福岡でも栽培できないか試してみる事にしました。さて始めるとなると栽培の右も左も判らないことだらけで、いろいろ文献を探してみたのですが、沖縄や奄美大島などの専門家の文献しか無く、福岡のような比較的寒い地域の栽培データは無いまま試行錯誤の栽培になりました。そこで折角栽培するなら記録を残そうと始めたweb siteの栽培日誌ですが、もう7年目となり、そろそろ趣味の栽培としてまとめて見たいと、記述することにしました。何せ自分の経験からだけで記述していますので、専門家から見るとおかしな記述になっているかも知れませんが、まあ趣味の園芸ですからとご容赦ください。

パッションフルーツとは

パッションフルーツは南米原産のつる性多年生熱帯果樹で、現在では世界中の熱帯、亜熱帯地域に広まり、オーストラリアや東南アジア、台湾などで栽培されています。

日本では沖縄県以外にも、奄美諸島、小笠原諸島、最近では各地で栽培が行われており、福岡県でも糸島や大牟田など各地で栽培され始めています。

トケイソウの仲間は種類も多く世界中には凡そ500種類もあるといわれていますが、その中でもパッションフルーツと言われるように食用フルーツとしての種類は20数種類あるそうですが、その代表がこの和名クダモノトケイソウです。

日本ではトケイソウは花の観賞用植物でしたが、現在は果実を目的に栽培している農家も多くなり、今なお生産者レベルでの選別的に品種改良も盛んで花の形や色、果実の大小、など多くの種類が出ていますが、その数およそ100種類とも言われています。

パッションフルーツの花

パッションフルーツの花を「情熱の果物の花」と考える人が多いようですが、実はこの「passion」という単語には「情熱」の他に「(キリスト)受難」と言う意味があるそうですが、



なぜそうなのか判りません。

日本では、花の形を「三本の針を持つ時計」に見立てられ「トケイソウ」と呼ばれています。最近では夏の省エネのために窓際にグリーンカーテンを作る家庭も多くなり、朝顔やヘチマ、ゴーヤ等と並んでこのパッションフルーツの利用も多くなりました。

パッションフルーツの花は形から見ても沢山の植物の花の中でも珍しい花の一つになるでしょう。また花の咲き方も独特で、一般的なエドリウスは朝の10時ごろ蕾が開き始めますが、2分ぐらいの間に満開になるので、その動きを目で追う事も出来ますし、耳を澄ますと咲くとき弾けるようなパッチと言う小さな音を聞く事も出来ます。そしてほのかで透き通るような香りが周囲に広がります。



クダモノトケイソウの中には午後に咲く種類(ジャンボ系)もあります。花が咲いた後、受粉して実がなるのですが、これに関しては後に記述します。受粉は人の手で行います。一般に昆虫が関与しますが、パッションフルーツでは駄目ですね。蜂のように花粉を媒介する虫がいないのです。受粉の方法は5ページの受粉作業を見てください。

栽培方法について

沖縄や奄美大島など暖かい地方では寒さで枯れる事はありませんが、九州本土以北では冬の気温が低くなるので、熱帯植物にとっては、そのまま冬を越すのが難しく色々と工夫が必要です。

気温が0度を切る様な真冬には加温設備のある温室か、あるいは室内の暖かい所に置く事で環境温度が5度以下にはならないように注意することが大事です。

さてまた花の事に戻りますが、ある程度温度を高くした温室で育てると新芽が早く出来て、開花時期も早くなるので、結果的には収穫も早くなります。

ただ春先に温室の中の温度が上がり過ぎないように、こまめ窓を開けて風を入れます。

ただ気温が30度以上になると花芽が付かず、付いても黄色くなって落ちてしまいますので真夏には花が咲かなくなります。種類によっては根だけ残って冬を越せる種類もあるようですが、このクダモノトケイソウは先ずは余程の暖冬でない限り無理です。また栽培状態も農家では露地栽培ですが、一般家庭の趣味の栽培では鉢植えが適しています。

鉢植え株は、寒くなった時にそのまま家の中や、簡易温室に移動出来ますので便利です。

但し収穫は、露地植えの半分ぐらいの収穫しか望めません。10号鉢の様な大型の鉢で果実は10から20個ぐらいですが、地植えにすると凡そ40個以上の収穫ができます。

また鉢植えでは水を切らし易く管理が面倒ですが、その点地植えは水を切らす心配が少なく水の管理は楽になります。

しかし地植えは冬寒くなくても移動が出来ず、本州ではビニールカバーをしたぐらいでは冬を超す事はなかなか難しいです。私は1坪の小さなビニールハウスを入手して、それに加温の為に500Wの専用電気ヒーターを利用していますが、電気代が掛りますので節電の為、極力温度設定を低くして、とにかく真冬でも5度以下にならない様、最高最低温度計を見ながら温度管理をしています。

このハウスには鉢植えの苗も入れて育てていますが、春には室外に出したり、一部は適宜蔓を誘引してハウス内でも育てています。



4月に苗の購入する時は気温が急に下がる事もありますので、室内やハウスの中に取りこむ必要があるかもしれません。ハウスのビニールカバーは4月中旬ぐらいまで被せる必要があります。(福岡で)

花芽は日中の温度が20度前後になると付き、更に日中の温度が20度～25度になると蕾が開花します。

したがって20度から25度と言う温度条件は、福岡では4月ごろでは室内か温室の中でしか確保できないので、早くから花を咲かせようとすると、温度の管理が問われます。



花芽が発生するためには日照時間が11時間必要だと言われています。

即ち日の出から日の入りまでの時間が11時間の頃と言う事です。

福岡ではこの温度と日照時間の条件は4月下旬頃になります。前年からハウス内で育てた苗を大きな鉢に植え替えて外に出すと、5月上旬には花芽が付き5月下旬から6月に入ると開花し更にどんどん伸びてきます。パッションフルーツは伸びてくると水をすごく要求してきますので鉢植えでは真夏になると毎日の水遣りが必要になります。

開花後の水と肥料

成長期のパッションフルーツは水と肥料を要求しますが、苗を植えるとき元肥の多く入った土を購入して植えて、其の後花が咲いて実が成りだす前に追肥として、固形の有機肥料と即効性の化成肥料を与えています。また鉢の場合は規定量に薄めた液肥を水代わりに1週間に1回ぐらい与えます。化成肥料は窒素分が少ない物が良いでしょう。

地植えの場合は植える時に腐葉土や緩効性の化成肥料や苦土石灰、熔性リン肥を土と混ぜて用意します。6月頃から蔓が伸びて花も咲いて受粉後は結実で養分が必要になります。沖縄、奄美では3月、4月の開花ですが、関東より北の地区では6月が開花のスタートになるが、開花後果実を大きくする為には肥料の管理が大切です。



受粉作業 (クダモノトケイソウ エドリスについての記述です)

花が咲き始めると受粉作業を行います。クダモノトケイソウは自分の花だけで受粉出来る自家受粉*タイプですが、確実に受粉させる為に人間の手で受粉させます。

パッションフルーツには大型果実の種類もありますが、これらの種類には、別の種類の苗を植えて、その花の花粉を受粉させる事が必要な種類もあります。(他家受粉*)

苗を購入する時はこの点をショップに十分に確認して置く必要があります。

クダモノトケイソウの開花は朝の10時前後で、開花始めて2分~3分ぐらいで完全に開花します。開花直後は花粉が湿っていますので、1時間後から数時間内に受粉すると確実に、雄蕊の黄色い花粉を筆や、綿棒、指で雌蕊にくっ付けます。(種類によっては開花時間が異なり、午後3時ごろ咲く物もあります。特に他家受粉種には気を付けてください。

ただ雨の日は、雨がやんでいる時に受粉しても、その後2時間以内に再び雨が降ると花粉が流れてしまい、受粉率は極端に下がってしまいますので注意して下さい。

また開花後あまり遅くなると花粉が乾いて飛んでしまうので花粉が少なくなり、受粉率が下がってしまいます。晴れた日は午後2時ぐらいまでには受粉させましょう。

* 自家受粉とは同じ株の花同志での受粉です。違う種類の別の株との間で行うのは他家受粉です。

この他家受粉は種類同士でも相性が有るようですから、苗を買う時には店で良く確かめてください。

水遣りの注意 (特に7、8月が注意)

パッションフルーツは水遣りが大事ですが、ただ水の遣り過ぎも困ります。やり過ぎると、排水の悪い鉢では土中が常に水で満たされ、根腐れを起こす原因になります。

逆に水が不足すると蔓がしおれ、更に果皮にも皺が出る事もありますが、夕方に水を与えると、翌朝は蔓も果実も元の状態になります。水不足では下の写真のように蔓が垂れて果実がみすぼらしく萎んできます。

ただ地面に長く鉢を置いておくと、根が鉢の排水口から地面に伸びて、更に大きくなり排水口を塞いでしまう事があります。その為水が流れ出なくなり、鉢の中に水が溜まり、根腐れを起こします。



鉢植えでは根が鉢の中の限られた範囲でしか生育できませんから、栽培する時は水の管理が大事です。また真夏では水不足で、枯らしてしまう事にもなりかねませんので、常に鉢の中を確認して、土の表面が乾いたら、十分に水をやってください。水と一緒に新鮮な空気を鉢内に送る事が根にとって大事です。

果実の収穫

受粉後の果実は1週間もするとピンポン玉より大きくなり、15日ぐらいでほぼ最終の大きさまで大きくなります。(資料のグラフを参考にしてください)

そして受粉後60日～70日前後で完熟になり、自然に落ちるか、ちょっと持ち上げただけで落ちてしまいます。

これが収穫のタイミングです。果実の色は気温によって差があり、普通は紫色で熟成しますが、気温が30度を超えると色が黄色や黄緑色のままで完熟する事が多くなります。

右上の写真は同じころ収穫した果実の色がこんなに差がありますが、どれも完熟状態で、右端の緑色の果実も追熟でしばらく置くと左の様に赤紫になります。特に猛暑ではほとんどが中途半端な色で完熟しますが、葉陰にある果実は比較的紫色が出ますので、この現象は太陽が果実に直接当たり強い熱で更に温まった結果ではと推察しています。

どうやら果実が受ける温度が熟成に大きく影響しているようで、落果前の色が少し付いたくらいの未熟果実でも、取った後温度の高い所に置いて追熟出来るようです。



気温と植物の関係 (4月が注意)

パッションフルーツは南方系の植物なので、低温の影響を受けやすく、樹勢がまだ弱い幼苗の時は特に気を配る必要があります。

4月上旬に日中の気温が15度位になったので、写真左の苗を外に出したままにしていたら、翌朝に下の写真のようになっていました。

慌ててハウスの中に入れて温度が上昇すると、半日で元に戻りましたが、やはり幼苗は低温になると水を吸い上げる力が弱くなる様です。この朝の気温は7度以下まで下がっていました。また鉢植えは地植えに比べ、鉢全体が低温に影響されるため根まで弱るようです。

先にも述べましたが花芽が付くのは20度が必要で、一度付いた花芽は15度位まで下がっても耐えられますが、それ以下では駄目なようです。

一般的に最低気温を5度以上と言いますが、あくまでも植物が死なない最低温度で、生育にはやはり10度以上が必要でしょう。ただ5度以下でも3, 4度なら短時間であれば枯死することは無さそうです。

花が咲き始めるのはやはり20度を超えるようになってからですが、逆に日中の気温が常時30度を超えてくると花芽はほとんど付かなくなり、付いた花芽も黄色になって落ちたり、受粉後の小さい実も落ちてしまう事も有ります。更に35度前後の気温が続くと果実にも高温障害が出て色が緑のままで落果する事が多くなります。しかし追熟で赤紫になり、味は完熟とあまり変わりません。

再び気温が下がる8月下旬ごろから再び枝が猛烈に伸びて花芽が付く、9月に入り朝夕が25度前後になると蕾が多く見られるようになり、再び開花が始まります。(福岡では)

勿論受粉すると結実はしますが、気温が低いので極端に生育が遅れ温室以外では収穫は難しいでしょう。沖縄や奄美などでは地植えのまま冬越しが出来ますが、九州以北では気温が低いので、



そのままでは冬を越せませんので、室内や温室など温度が5度以上の場所への移動が必要です。したがって地植えしている時は掘り上げて鉢に植え替えて温室に入れる必要があります。

株の増やし方

種から育てて実生苗*を作るのも良いのですが、私は便利で確実な挿し木で増やしています。（*実生苗とは種を蒔いて育てた苗で大量に作るのに適しています。）

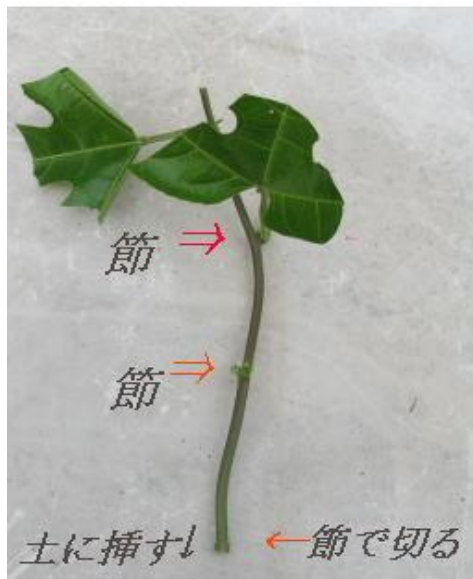
秋の剪定や春先に剪定した枝を利用して株を増やし来年に備えています。

この方法は比較的確実に苗を作れる方法ですが、本数は栽培スペースに制限がありますので来年の栽培プランに合わせて、時期と本数を決めています。

気温が高い時に挿し木すると成長が早いので、春の剪定で切り落とした枝を、左の写真のように凡そ長さを20～25cmに切り、付いた葉を3分の1ぐらいにカットします。

但し切り取る枝は古い枝よりも出来るだけ新しい枝を利用した方が後の育ちが良いようです。（古い枝は新芽がなかなか出て来ません。）

また挿し木する土は市販の挿し木用の土を深さ15cm位の深さまで入れたプランターに挿



しています。

気温が高いとおおよそ2週間で節の所から新芽が出て、同時に根も出てくるので、鉢に植え替えて夏を経てしっかり育ち、来年用の苗が出来上がりです。

ただ気温が高いと水の蒸発が早いので土が乾かないように気を付けてください。

順調に育てば秋までに高さ1m以上になり花も咲きます。

沢山の苗を作るには種を蒔いて育てる方法もありますが、この実生苗は挿し木苗に比べると生育に時間がかかり、同じ大きさの苗でも開花に至るまでの期間が挿し木苗に比べると半年以上長くなるようです。

しかし大量に苗を作る

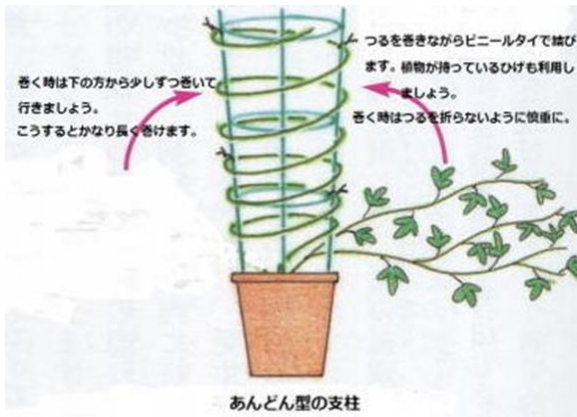
時は、時間は掛りますが種から育てるのが便利です。

また挿し木も夏の後半や秋ではどうしても生育が遅れ、来年植え替えても株が小さく、生育も開花も遅くなります。

特にグリーンカーテン用として育てる苗は前年の春に挿し木した苗が植え替え後の生育がよく、早く育ちますから適しています。秋の苗では肝心のカーテンが暑い時期に間に合いません。カーテンは前の年に大きくなった株を小さく整理して冬越しさせた株を利用

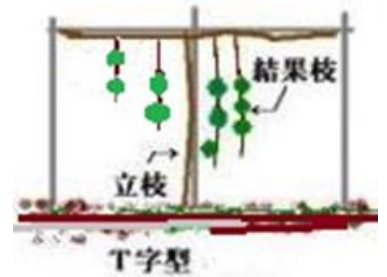
すると、育ちが早く早めにカーテンが出来ます。もちろん果実を収穫するのも早く育てた方が有利ですので、栽培は2年にわたっての苗づくりが必要です。





樹形

鉢植えの場合は鉢の周りに3、4本の支柱を立て、これに蔓がぐるりと取り巻く様に育てるあんどん型が一般的です。



趣味の鉢栽培にはこの形が場所も取らず適していますが、あまり大きく育てられないので、果実の数は期待しない方がよさそうです。

鉢の大きさにもよりますが、大きな鉢やコンテナを使うと10～20個ぐらいは収穫出来ます。地植えにする時は右図のようにT字型やL字型の樹形にして水平に網を張りこれに這わせると枝も誘引し易く、栽培上の管理もし易い事からこのタイプがよさそうです。

また2本(1.8m)の市販されている支柱に網を張り、これに枝を這わせながら栽培する方法は、パッションフルーツをグリーンカーテンとして栽培するのに適しています。

地植えのパッションフルーツがひと夏で、どのくらい蔓を延ばすのか測って見ますと、4～5m位の蔓が7、8本も伸びて総延長30m～40mと言う状態になりますから、複数株を植えるとかかなり大型のカーテンも出来そうです。

ただ枝が込み入って来た時でも受粉等の作業がし易くする事と、全体にとにかく日光が良く当たり、風通しが良い樹形に蔓を誘引しましょう。ただ高い所で開花しますから受粉が大変です。グリーンカーテンの事については別のページをご覧ください。

剪定 (冬前の時期と新芽が見える3月下旬頃)

剪定は収穫が終わり、冬越しの為の株の移動させる時に行います。春の新芽が伸びやすくなるように、古い枝を整理するために行います。ただ春の剪定では樹形の確保も必要ですが、伸びた新芽は折れやすいので気を付けてください。

勿論温室の中で全く剪定しなくても、次の年に脇芽(新芽)が出て先端に花が付きますが、剪定していないと蔓が繁茂し、新しい枝が古い枝の下に潜り込み出蕾が抑制されたり、風通しが悪くなります。

本来の剪定作業は新しい枝を育成するために、古い枝、つまり前の年に収穫を終えた枝を剪定します。この古い枝は次の年には実が付かないので、主幹から40～30cmだけ残して剪定すると、残した部分に新芽が出て新しい枝が伸びてきます。

ただ初冬で深い剪定をすると早く新芽が出る場合があり、真冬の2月頃はハウス内の温度が低く、折角出た新芽が寒さに耐えられない場合もあるので、冬越しの剪定は取り込みのための樹形を整えるだけの剪定にして、春の気温が少し上がり、新芽が動き初めてから古い枝の剪定をおこなっています。春の剪定の方法は新しい枝が少し伸びた時に、伸び先を考えながら、新しい枝が出て来た所から先の古い枝を切り落としています。

行燈仕立ての鉢植えはこのタイミングで枝の巻き直しを行えますが、新しく伸びた新芽を痛めないように慎重に支柱からほどき、剪定後に鉢が小さい場合は一回り大きな鉢に植え替えて巻き直します。冬前の剪定時に果実が成っていると困る事が有りますが、9月頃の着果であればかなり大きくなり色も出て来ています。この時は取って30度位の温度で保存すると色も出て、ほぼ完熟になります。ただし味は？です。

苗の植え替え

鉢の植え替えは挿し木床から苗を小さな鉢に植え替えて、ある程度大きくなったら、一回り大きな鉢に植え替えて育て、冬越し後、春先に二回り以上の大きな鉢を用意し植え替えています。結局3回の植え替えになります。

右の写真は実際私が行っている鉢替えの状況です。挿し木苗は小さな鉢**1**で育て、更に苗がしっかりしたら、

左の鉢(計18cm)**2**に移植します。この鉢が冬越し鉢になります。翌年の春に大きなプランター(68cm×38cm深さ26cm)**3**に植え替えて本格的な栽培になります。空間が確保できないベランダなどでは10号鉢(径30cm)位が良いでしょう。使う土は売られている一般の培養土で結構で、それに腐葉土なども混ぜて使用しています。グリーンカーテンには地植えがお勧めですが、地植えの場所が確保できない時は、上の様な大型の鉢(プランター)を使い、また**2**の鉢から植え替える時は出来るだけ根鉢を崩さずに植え替えます。

また植え替えの時期が遅れると鉢の中に根が密集し植え替え時に多くの根を切ってしまう、後の回復が遅れ、生育が遅れてしまいます。



病虫害について

最後に病虫害について述べておきましょう。福岡で6年ほど栽培しましたが、特別ひどい病気や害虫に遭遇した事はありません。

この植物は結構病気には強そうで幸いに罹った事も無く、農薬のお世話になることもありませんでした。

ただ梅雨時に発生するナメクジが蕾や花に取り付いて、おしべからめしべまで全部食べられた事もあります。また蕾に穴を開けて

中に入り込み、中を食べてしまいます。(右の写真)特に地植えがやられることが多く、被害がひどい時は株の周りにナメクジの駆除剤を置くことも検討してください。

ナメクジや毛虫の対処方法はこまめに探して手で取り除きます。(左の写真はナメクジに雄しべも雌しべも食べられてしまった花です。)

ショップで苗を購入する時の注意

苗を購入する時はいろいろ教えてくれるショップを選び、更に幾つかの事を確かめておいた方が良いでしょう。これらの件は詳しくショップに聞いてください。

- 1) パッションフルーツの苗がどんな種類かを確認します。
- 2) 自家受粉が出来る種類かどうか。別の種類の株が必要ないか。
- 3) 買ったその夏に開花、収穫出来るのか、あるいは来年まで育ててからの収穫なのか。もちろん実がついた鉢では問題なしです。
- 4) 購入後も栽培に関するこちらの質問にメールなどでちゃんと答えてくれる店を選びたいですね。

では 月毎の管理作業を述べましょう。福岡での栽培を基準にしていますので、福岡より寒い地区や暖かい地区は気温を考えて、多少時期の調整が必要になります。

新しく苗を購入された方は4月か5月から始まる事になるでしょう。



パッションフルーツの月毎の管理作業(福岡での例)

1月

昨年から育てた苗は室内や温室の中に取りこんで、できるだけ日当たりが良く、暖かな状態に置けば幾らかの成長を続け、少しずつ春に向けて準備をしています。

冬季あまり水を与えないとは言いますが、乾いたら適宜やるようにしてください。ただ水への要求度が低いので、水が鉢受けに多く残る様な状態では根を痛めます。

勿論施肥は必要ありません。

2月

育成管理は1月同様です。室内でもハウスでも温度が5度以下にはならないよう気を付けてください。

もし秋の実を付けていればそろそろ紫色になりますが、色がついても収穫はやはり下旬以降になります。

3月

下旬になり少し外の気温も上がってくると新芽が出て来ます。この時期に枝の整理も兼ねて剪定を試みても良いでしょう。新芽の伸び方を見ながら古い枝を中心に剪定し、新しい枝をどう伸ばすのかを考えながら行ってください。

ただ新芽は痛めないように気を付けて下さい。冬前に深めの剪定を終えていれば新たな剪定は必要ありません。

福岡より寒い地区では、芽が動くのも遅いですからこの剪定は4月まで待ちます。

種から育てる方は、3月から床に種を蒔き暖かな場所に置くと4月には芽が出て伸びてきますが、福岡より寒い地方はひと月伸ばした方が良いでしょう。

新しく苗を購入するのはやはり気温が暖かくなった4月から5月頃でしょう。

4月

4月は本格的に暖かくなり、中旬以降は気温も10度を超えて栽培に適したシーズンになります。新たに購入した苗は大きな鉢に植え替えましょう。

温度がまだ朝夕に10度を切るようでしたら、そのまま室内やハウスに入れて置きます。

地植えもこれに気温が10度を越えたら鉢から地に植え替えます。

昨年から育てた鉢は新芽がかなり伸びてきましたので、行燈仕立ての株は4月初旬に枝の伸びを見計らって、枝のまき直しをおこない鉢も大きくします。新芽の伸びを見ながら邪魔になる古い枝の整理も行いますが、ここでも新芽を痛め無い様にしてください。

整理した枝の一部を来年の為に早めの挿し木もできます。

またこの時期、数十センチに伸びた昨年からの苗は大きな鉢に鉢替えを行い、いよいよ本格的に育てますので、新たに土を加えて施肥も施します。(植え替えの項を参考に)

昨年既に大きな鉢に植え替えている鉢をそのまま育てる時は、改めて有機肥料などの施肥を行います。液体肥料や有機肥料、遅効性の化成肥料を与えても良いでしょう。

グリーンカーテン用の苗は中旬には植えましょう。出来るだけ早く枝を伸びるよう早めに取り掛かります。鉢を使用する時は利用できる最大の鉢に植え替えますが、出来るなら地植え

を推奨します。やはり蔓を大きく這わせまる必要がありますので、地植えの方が樹形を大きく出来るので、カーテンとしての効果が期待できます。

これらの作業はあくまでも福岡での作業で、最低気温が10度を越えてからの作業です。地域によっては5月の作業になるかもしれません。地植えの時も植える前に施肥をしてください。腐葉土など有機性の肥料を土に混ぜて与えます。パッションフルーツは弱酸性の土が良いとされていますので土に酸性のピートモスを加えて混ぜています。

5月

いよいよ花が咲くシーズンになります。日光がたくさん当たる場所に置きましょう。

昨年から冬越した鉢は4月中旬から5月初めに有機肥料と化成肥料を与えてください。鉢の中に持ち越した土だけでは栄養が大いに不足です。施肥の量は10号鉢では遅効性化成肥料で5～6grです。小さな鉢では毎週1回規定量に薄めた液体肥料を水代わりに与えます。私は発酵させた油粕などから出来た有機肥料を中心に与えています。

5月中旬ごろから花が咲きますのでいよいよ受粉開始です。来年の苗の確保の為に挿し木もまだお勧めの時期です。花芽が付いていない枝を剪定して挿し木にしても良いでしょう。下旬には花がぼつぼつ咲きますので、その都度受粉してやります。このころは気温20度を越えて25度近くまで上がってきます。地域によってはこの作業は6月になります。

6月

株がぐんぐん大きくなります。それと同時に水も要求してきますので、梅雨の時以外は土の表面が乾いたら鉢底から少し流れるぐらいやってください。

花が咲き続けますので人工授粉が続きます。一方結実した実がたくさんぶら下がってきますが、もし果実を大きく育てたい時は、まだ小さいならうちに摘果をします。普通一枝に3、4個ぐらい実を付けさせ、枝が小さい時は1、2個です。

また果実が揺れて周りの枝などに擦れて傷をつける事がありますので、袋かけをする方もあります。また完熟での自然落下を防ぐために網の袋を掛けると完熟して果実が落ちてても下まで落ちませんから収穫が気楽に行えます。施肥は2か月に1回ぐらいが良いですから5月に与えた方は7月に入って与えてください。

7月

鉢栽培は梅雨時期の水の心配は無さそうですが、特に暑くなると水不足が心配ですので気を付けてください。月の後半は気温が高くなると花芽が付かなくなり開花も少なくなりますし、折角受粉できても、実が小さいうちに落果する事もあります。気温が30度を超えてくると更に開花が全く見られなくなります。ただ本来熱帯性の植物ですから成長は続いており、株の本体は40度位でもどんどん成長します。月末になるとそろそろ果実に紫の色が付き始め、早いものでは収穫が出来ます。熟成した果実はぶら下がっている果実を下からちょっと持ち上げただけで枝から落ちます。そのままほっとくとひとりでの下に落ちてしまいます。高い所から下に落ちると傷がつきそうな時は、果実に袋を掛けたり下に網を張るのも案です。

8月

いよいよ本格的な収穫期になります。ちょっと目を離している間に下に落ちている事が良くあります。あるいは草むらに転がり込んでいる時もありますので要注意です。

7月同様、暑さ対策は特に必要ありません。水と栄養さえあれば、月中ごろから更に新しく芽が伸びてきて、ほって置くと、すごく繁茂しますが、月末の夜の気温が25度を切る頃にな

ると再び枝の先に花芽が出て来ます。しかしまだ花は咲きません。繁茂しすぎた枝を整理してください。花を楽しむため花芽を切らないように。

枝を整理した時に来年用の挿し木をしても未だ間に合います。肥料は冬越しの前に樹勢を強くするため、施肥を行います。(やり方は5月の前述の通りです。)

8月、9月は台風シーズンです。鉢が強風で吹き飛ばされないように、風が極端に強い時は鉢を倒しておくとか、風の当たらない所に移動するとか、風対策がひとつです。

9月

秋の花が咲き始めます。ここで受粉させても良いのですが、収穫には来年まで掛りますので、趣味の園芸では花を楽しむだけにした方が無難かも知れません。

勿論結実させて20度近くの温度を何時も保てる温室は別ですが、屋内でも温度が低いと収穫は年を越す事になります。もちろん10月11月の気温が高い地域では年内の収穫も可能です。福岡でも11月の最高気温の平均が20度を越える年には、9月初旬に咲いた花の果実は年内収穫が出来ました。

10月

10月は各地で気温差が大きくなります。福岡ではまだまだ地植えも問題ありませんが、やはり日中の気温が15度を切るような地区ではそろそろ冬越しの準備がいきます。

鉢植えも10月後半では樹形をシンプルにして室内やハウスへの取り込みが出来る様に準備します。地植えはそのまま来年まで育てるのであれば、根から掘り起こして鉢に植え替えて置く必要があります。そのための剪定作業がありますが、これらの作業は福岡では11月に入ってでしょう。植え替えた鉢には肥料はしばらく与えないでください。

11月

いよいよ本格的に冷え込む季節です。冬越しの準備を行います。鉢植えは伸びきった蔓は一度ほどいて四分の一から三分の一を切り戻し、再度まき直しすっきりとした樹形にして置くと移動し易くなります。

本格的に気温が下がって来る下旬には温室の中や家の中に取りこみます。温室にはビニールを掛けて直接寒さに晒されないようにしておきます。肥料は全くあげません。水も表面が乾いてきたらやる事にしますが、あまり乾燥しませんのでやり過ぎに注意してください。

12月

いよいよ寒くなります。地域によっては雪も降り始め、気温も氷点下になる処もあるでしょう。ハウスの中も加温が必要になるかもしれません。福岡では1月中旬ごろから必要です。

家屋に入れた株は出来るだけ日当たりの良い場所に置けると良いですね。

南国の植物にとっては一番つらい季節ですが、この植物の耐寒気温は5度位までで多少の条件の違いがありますが、気温が5度を切る心配のある時は保温のための処置が必要です。ハウス内ではヒーターの準備が要ります。ただ加温出来ないビニールハウスでは冬を超えるのは難しそうです。もし暖冬などで越えられたらラッキーだと言えるでしょう。

とにかくクダモノケイソウは熱帯性の植物ですから、苗だろうが成木だろうが、如何にして寒い冬を越えさせられるかが栽培上一番の問題です。これさえなければ他の園芸植物に比べ育てやすい植物ですね。

グリーンカーテンについて

最近の節電意識の為かグリーンカーテンを作られる方が多くなった様です。

私も実際に作ってみました、なかなか良いカーテンが出来ました。昔から朝顔やヘチマなど色々な蔓植物がカーテンに利用されます。

最近では果実も収穫できるメリットも期待できるとパッションフルーツも利用される様になりましたそこでパッションフルーツで作るグリーンカーテンについて (図1) 述べて見ましょう。



まずはカーテン用の苗は前年の春に挿し木した苗を利用します。前年の夏にある程度成長していますので植えてからの伸びが早いです。秋の挿し木ではちょっとスタートが遅れます。植えるのは地植えが有利ですが、鉢植えでも大型のコンテナを利用すると結構大きく育てられます。市販されている支柱を用意します。3m×1.8m位の物を準備。図1これにコンテナに植えた苗を網に沿わせて伸びる様に配置します。これは気温が20度位になったら作業スタートです。福岡では4月下旬ごろです。

そして図2の様に枝を横に這わせませす。そうする事で側枝が縦に伸びようとする性質を利用して枝を上へ伸びる様に誘導します。ここで主幹の先端の芽を切除すると側枝が沢山出てくると指導されていますが、このころから花芽が多く出て来ますので、収穫も兼ねるともう少しこのまま成長させて開花を待ち受粉させませす。更にもう少し必要な高さまで伸ばしてカーテンの形を作るようにします。 (図3)



(図2) ある程度形を作りながら枝を誘引して希望する高さに来たら先端を切ります。そうすると側枝が出て来てカーテンを形作る事になります。そして全体が上に伸びる様に誘導します。図3の様にいくつもの枝が上に向かっていきます。



この時期水を切らさないようにして更に化成肥料を与えて枝の伸びを加速させませす。やがて全体に枝が伸びて必要な高さになったら先端を切って側枝を多くして密度を大きくします。この時あまり高い所で切ると上の方ばかりカーテンが厚くなりますので、ある程度中間部分を厚くする為目的の高さの半分ぐらいで切った方が良いでしょう。ただし花芽も一緒に切るので、果実の方は余り多くは期待できません。

カーテンで重要なのは

- 1) 植える苗が有る程度成長している(1m以上)のが良いです。種類は選びませせんが、生育のスタートが遅れる種類もあります。
- 2) 植えるコンテナは大きいほど育てやすい。
- 3) 肥料は有機肥料と化成肥料を多めに与える。最初はN分を多く。
- 4) 果実は数を犠牲にする事もあります。
- 5) 植える時期は出来るだけ早く。その地域で気温が15度を越えてから。
- 6) 水の管理を忘れない事。真夏は全体の表面積が広いので、蒸発が激しくすぐ乾いてきますので、注意して下さい。

カーテンは梅雨明け頃にはほぼ完成したいですね。



簡単な管理作業のカレンダーを作りました。

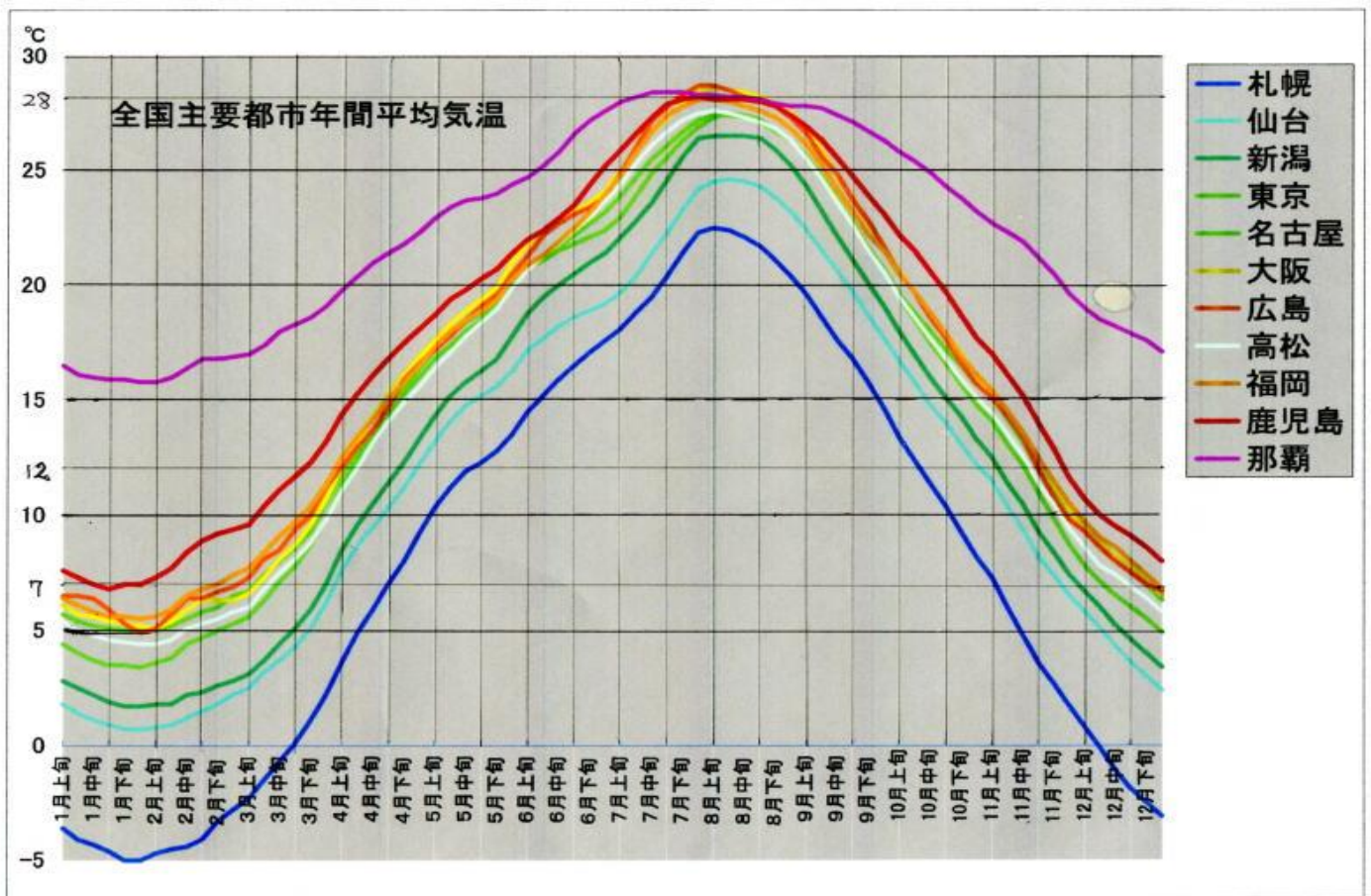
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
生育状況	室内または温室(日当たりのよい)				日の良く当たる戸外で栽培							取り込み	
植え付け					庭への植え付け						掘り上げ		
開花									秋の開花				
作業					人工受粉作業								
水遣り	乾かし気味にする				梅雨の時以外は水不足が起こらないように注意							乾かし気味	
肥料					5月に有機肥料の置肥 鉢植えは液肥を1週間~10日毎に与える								
作業					蔓の切り戻・誘引 鉢植えの場合鉢を大きくする。								蔓の剪定
種まき					挿し木最良時期				挿し木はこの時期何時でも良い				

この栽培カレンダーはあくまでもクダモノケイソウで福岡での栽培です。

以上パッションフルーツの栽培方法を私なりにまとめてみましたが、沖縄などの栽培記録はあるのですが、福岡での栽培文献も生育情報も入手出来ませんでしたので、自分で6年間の栽培経験から栽培方法を述べてみました。6年間も栽培していてもまだまだ判らないことが次々に出てきて植物の栽培は奥が深いです。また業務用で栽培するのは基本的には趣味の栽培と同じでしょうが、更にいろいろ工夫が必要になります。

参考資料1

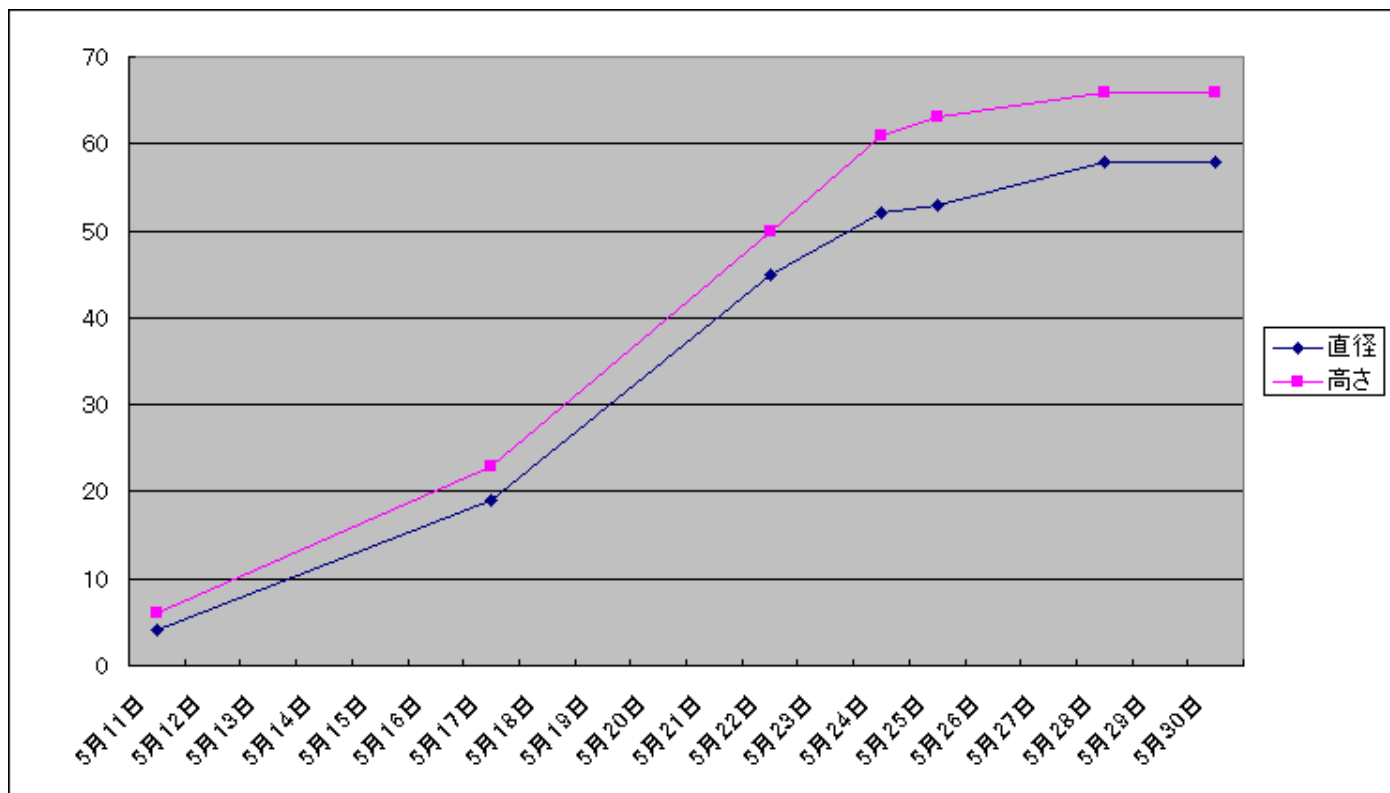
全国主要都市の年間の月別平均気温 (気象庁資料から)



気温は平均気温ですから最高気温はもっと高くなりますし、最低気温はもっと低くなります。(±3度~5度) 地域の温度を見て作業の参考にしてください。

参考資料2

結実後の果実の生育状況(私の栽培でのケースです。)



このグラフから見ると受粉後18日目にはほぼ最大の大きさになっています。これはどの果実にも共通するようです。グラフの様にかかなりの速さで大きくなります。果実の重さは平均的には50gr~80grぐらいです。

参考資料3

パッションフルーツ栄養成分表例

成分	エネルギー	蛋白質	脂質	糖質	Na	VA	VC	葉酸
/100gr	64kcal	0.8gr	0.4gr	16.2g	5mg	89 μ g	16mg	86 μ g

ネットで調べた分析表です。

この分析はほんの一例ですが、パッションフルーツの種類は判りませんが通常販売されている種類だと考えています。

これを見ると特徴的なのは葉酸が他の果物に比較して多いようです。VCはバナナ並みで多くはありますが、突出しているような値ではありません。ここには載っていませんが、 β カロテンも多くみかん並みです。ナイアシン、カリウムも比較的多いのが特徴です。

パッションフルーツの食べ方

収穫した果実はしばらく常温で置いておき、表面に少し皺が寄るぐらいになったら、一晩冷蔵庫で冷やした後にナイフで半分輪切りにしスプーンで種ごと食べます。強い香りと甘酸っぱい濃厚な味で、さすが南国フルーツです。

余り長く置くと酸味が減少して少ししまりが無くなって来ますので、美味しく食べるにはタイミングが大事です。

ただ生食ではそんなに沢山食べれないので、収穫が多かったらジュースやジャムに加工すれば、また格別の味です。果実を25個ぐらいあれば結構沢山出来ます。

ジャムの作り方は一般的な作り方、私は電子レンジで作っています。ジャムの製造では種が入ったまま作っている事もあるようですが、私はひと手間掛りますが、種を少し加熱してから濾しとって分離し、ジュースだけにグラニュー糖を添加して作っています。そちらの方が食べる時に抵抗がありません、粒粒を気にする事ありませんしパンにつける時やヨーグルトに入れるにもスムーズにできます。詳しい作り方は別のページで見てください。私は作った瓶詰ジャムを冷蔵庫に入れて年間を通して食べています。香りも良く美味しいです。

終わりに際して

最後にパッションフルーツは最近多くの方に栽培され始めましたが、花を観賞するだけでなく、果実を収穫するのを楽しみになさっているようです。また省エネのグリーンカーテンの植物としても話題になりました。

それぞれの目的に応じて栽培管理をしますが、本来が熱帯系の植物ですから、冬場はある程度しっかりした温度管理が求められます。

この辺が趣味の園芸としての難点で夏だけの栽培でしたら、この植物はむしろ栽培し易い部類に入るでしょう。

私自身の栽培経験に基づいた記述ですので、専門の方から見ると物足りない所や、おかしいところもあるかもしれませんが、その辺はどうかご容赦頂きたいと思います。

平成23年9月

JA6ATL 阿部

